

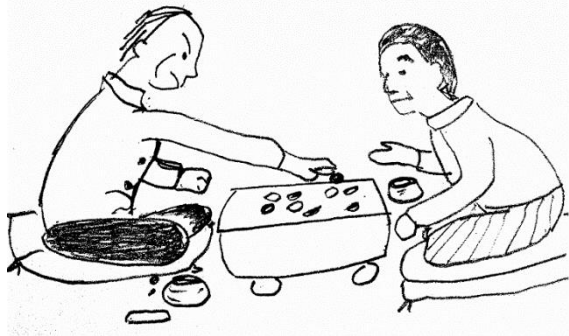
芳賀の水物語

-2-

芳賀の地形と水利用

5. 水争いを囲碁勝負で解決

小坂子町には嶺町との水争いを囲碁勝負で解決したという話があります。小坂子町は赤城山・鍋割のふもとを水源とする金丸用水(溝の口用水)と、旧富士見村皆沢の江戸窪を水源とする皆沢用水の権利を持っていました。大正九年の関東大震災以後、溝の口用水の湧水量が極端に減り、皆沢用水に依存することになり、



水を盗まれないように皆沢に番小屋を作り、田植え時期には町民が交代で水番をするようになりました。

当時、隣接する嶺町でも大堤沼や藤沢川の水不足に遭遇していたため、町の北を流れる皆沢用水がたびたび水路決壊し、水が流れていたことから、嶺町にも水利権があると「皆沢用水を嶺によこせ」と小坂子に要求しました。話し合いで決着がつかず嶺町からの提案で、囲碁で決着をつけることになりました。しかし、提案した嶺町にはさぞかし強い囲碁打ちがいるだろうと、誰も引き受け手が出ない。そこで村役からの提案で「負けは関係者全員の責任で個人責任は問わない」ことで了解され、代表が決まり囲碁勝負を行いました。

結果は、なんと小坂子町の勝利！代表となった



方の囲碁の実力は？とのことで、嶺町が前橋の殿様が了承した水の権利を争うことを避けて、囲碁勝負で負けることを仕組んだのではないかと伝わっています。

6. ため池の泥流し



泥流し 大堤沼

自然環境を感じることもできる場所でもあります。しかし、ため池は放っておくと流入する土砂等により底が浅くなったり、ゴミがたまったりします。定期的な清掃活動が欠かせません。

小坂子町、嶺町では町内のため池の「泥流し」を定期的に行っています。小坂子町には芳賀地区の12のため池のうち7つがあります。町では毎年十一月に、7つのため池のうち、上流の沼からの流水でたまった泥を流すことが出来る新沼、一本木沼、十二沼の3つの沼の泥流しを、毎年1か所ずつ行っています。

泥流しの前に、取水口を開いて沼の水を抜いておきます。一方、上流の沼には水をたっぷりためておきます。そして泥流しの日に水抜きをします。町民は沼の中に入り、た



泥流し 一本木沼

まった泥(ぬる)を用具でかいて、強く流れている水に混ぜ込んで取水口から流します。水の勢いが弱くなる前に流す必要があります。時間は弱くなったが、実際は弱くなったら切り上げます。泥流しには水利利用者のほか自治会役員らが参加しますが、毎年人手が足りない状況です。

〈つづく〉

芳賀地区生涯学習奨励員
連絡協議会

4月の主な行事予定

4月18日(土)芳賀地区各種団体総会

(芳賀公民館)



芳賀地区には今でも多くのため池があります。大正用水と群馬用水の完成により、農業利用の重要性は減りましたが、豪雨の洪水調整や土砂流出防止の役割もある、地域の歴史を示す大切な自然資産です。また嶺公園内にある大堤沼は、水鳥・野鳥の観察地となっているなど、芳賀地区の豊かな